

念写とDr.福来

山本健造 著

念写発見当時の
福来博士



念写発見の為、東京帝大より追放された 学聖福来

東京帝大の物理学者は謀略的虚偽報道をバラ撒き、天下の新聞は個人攻撃を繰返し、能力者は自殺、憤死し、実験不可能にまで追い込まれ、福来博士は学界より追放されたが臥薪嘗膽30年にして、世界の学界は道実験により公認した。

「地球は丸い」と言っ「聖書に背く」として投獄されても、それを貫いたガリレオにも比すべきは福来友吉博士である。

目次

はしがき

第一章	意識は脳で生まれる……………	15
1	大脳が灰になれば心は無くなる筈……………	15
2	されど幽霊現象は続いている……………	17
3	この矛盾は念論で解決される……………	17
4	念論の応用で病癪がどんどん治る……………	19
第二章	千百年前の霊による念写か「弘法大師の御霊影」……………	20
第三章	世界に輝く福来博士と誇るべき受難……………	57
第四章	福来学説の現代化の必要性……………	59

第五章 福来学説の発展としての六次元原理……………62

第六章 福来博士を生んだ背景……………65

第七章 福来友吉博士の幼少時代……………67

1 幽霊退治をした福来少年……………67

2 幼少時の記憶……………70

3 たった一人の中学卒業生 松本友吉……………75

4 福来少年の立志と親友の証言……………77

第八章 飛驒における福来博士の青壮時代……………79

1 大成まで女を近づけぬ福来青年……………79

2 悲恋に泣く美女……………80

3 念写能力者高橋貞子の面白い裏話……………83

4 飛驒に於ける福来博士……………84

	第九章	福来博士の東京帝大時代	86
1		世界に誇る変態心理学創始の動機	86
2		心霊学研究の動機	90
3		催眠心理学の大成	91
4		変態心理学者としての活躍	95
5		天下を震撼した透視実験	96
	A	催眠心理より透視へ	96
	B	透視能力者御船千鶴子の自殺	97
	C	念写発見を葬らんと暗躍する物理学者	100
6		ノーベル賞的大発見！念写	101
	A	念写能力者長尾郁子の日常生活	101
	B	念写発見の動機	103
7		理学士藤教篤等の奸計	105
8		言論機関の悪用と念写撲滅作戦	114

9	念写実験妨害の變怪事件	116
10	念写を感情的に否定する物理学者の策動	123
11	東大理学部の仕打ちと能力者の悶死	126
12	念写発見の乗っ取り野望家の暗躍	132
13	念写再実験の機運迫る	136
14	福来博士の悲壮な決意	138
15	高橋貞子の念写実験の顛末	143
16	高橋貞子の念写第二回実験見事成功!	145
17	高橋貞子の第三回の念写学術実験大成功	146
18	決然! 福来博士堂々大逆襲す	152
19	福来博士の逆襲の反響	154
20	救い難い当時の物理学者の頭	156
21	透視、念写問題と当時の世論(長尾夫人悶死前の微笑した記事)	158

	22	東京帝大物理学者の卑劣な態度……………	161
	イ	中村清二博士と弟子達の苦境……………	161
	ロ	東大総長山川健次郎博士の狡猾……………	163
	ハ	能力者二人の死をどう見るか……………	166
	A	千鶴子の自殺は学者に責任あり……………	166
	B	長尾夫人の悶死の責任は誰がもつか……………	169
23		暗黒なる学界！福来博士の追放……………	170
24		心理学者小熊虎之助氏の念写否定……………	175
25		高野山に入り仏道修業……………	178
第十章		宣真女学校長時代の福来博士……………	179
1		世は福来博士を抹殺せんとす！……………	179
2		宣真女学校初代校長に迎えられる……………	180

3	名校長としての福来博士……………	183
イ	盗品を発見して優しく指導……………	183
ロ	無邪気、天衣無縫の福来博士……………	190
ハ	和気藹々の校風と福来先生……………	190
ニ	福来博士を慕ってストライキ……………	191
A	ストライキの生証人……………	191
B	世界に珍らしいとアメリカ新聞にのる……………	193
C	福来校長退職問題の真相……………	193
ホ	新北撰史話にあらわれた福来博士……………	197
第十一章	高野山大学教授時代の福来博士……………	201
1	高野山大学に残る履歴書……………	201
2	高野山大学に於おける名講義……………	204

3	密教を貫く真理を説かれた福来博士	207
4	世界心霊学大会に出席の福来博士	209
	三田光一氏の念写	212
第十二章	仙台に於ける後継者づくり	214
1	仙台の学者達の反応	214
2	福来友吉先生の晩年の学説	219
イ	観念生物論	222
ロ	観念実在論（念論）	223
ハ	念写説	226
ニ	時間空間論	229
ホ	生命主義	230
3	福来友吉先生を悼む	235

第十三章	福来博士と飛驒に於ける弟子……………	243
------	--------------------	-----

1	飛驒人の念写への関心……………	243
---	-----------------	-----

2	無念無想と無我一念の相違を悟る……………	244
---	----------------------	-----

3	郷土に呼びかけて神通力の実験……………	245
---	---------------------	-----

4	神秘の解明を哲学する……………	245
---	-----------------	-----

5	福来博士の残された仕事……………	247
---	------------------	-----

6	福来心理学より夢の分析……………	249
---	------------------	-----

7	飛驒に於ける透視と念写の実験……………	251
---	---------------------	-----

8	福来博士との面会の機を逸す……………	252
---	--------------------	-----

9	福来博士をインチキ博士と呼ぶ郷土……………	253
---	-----------------------	-----

第十四章	福来博士記念館建設の顛末……………	255
------	-------------------	-----

1	飛驒の相次ぐ放火事件……………	255
---	-----------------	-----

2	福来心理学研究所創立……………	281
1	エロディア先生のメッセージ……………	280
	福来博士記念館完成後……………	280
10	開館式の悲劇と親友との決裂……………	277
9	福来夫人に頼まれた重大事……………	276
8	仙台の学者の毅然たる態度……………	275
7	掛軸にまつわる重大事件起こる……………	273
6	記念館建設に起こった神秘現象……………	271
5	工事中止命令と進路四面遮断……………	267
4	城山照蓮寺との交渉……………	264
3	高山市長への嘆願と決裂……………	260
2	記念館創立発起と福来家の心靈現象……………	256
	第十五章	

3	月裏面 <small>りめん</small> の念写とソ連のロケット月裏面写真 <small>しゃしん</small> ……………	284
4	四次元より六次元への必然性 <small>ひつぜんせい</small> ……………	285
5	福来博士の碑 <small>ひ</small> は時代の尖端 <small>せんたん</small> に輝く <small>かがや</small> ……………	287